

| 教育活動への取り組み（要約） | 自己評価（右端は自己採点・5段階） | |
|---|--|----------------------|
| <p>1 学校運営</p> <p>ア 経営会議、主幹会議を効率的に運営し、教育活動の改善計画をまとめる。</p> <p>イ 生徒の現状に即した教育課程の改編を図る。特に、基礎学力向上のための普通教科の必登録化と、キャリア科目のスリム化を図る。</p> <p>ウ 教育課題に対応したPTを組織し、解決案を主幹会議に提言させる。</p> <p>エ 創立10周年記念式典を実施し、生徒の帰属意識を高める。</p> <p>2 学習指導</p> <p>ア 少人数習熟度別指導や誉めて伸ばす指導を基本に、生徒の「自発学習」を促し、学力を伸ばす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習到達目標を明確にし、小さな達成感を積み重ねて自己効力感を育てる。 ○ 毎回の小テストや家庭学習の工夫により、学習習慣を身に付けさせる。 ○ 基礎力診断テスト結果を活用し、個々の生徒の学力の到達度を明らかにして指導に役立てる。 <p>イ 授業の質を向上させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 言語活動を導入し、生徒を積極的に授業に参加させる。 ○ ICT機器を使った授業展開に挑戦する（年最低1回）。 ○ 生徒による授業評価を行い、授業改善策を各教員でまとめる。 | <p>1 学校運営</p> <p>ア 以下の改善計画を達成した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習（宿題）の推進 ・5段階評定の基準の見直し ・みのり杯（体育祭）の内容充実 ・言語活動の導入（言語活動向上拠点校） ・教育課程の見直し <p>○キャリア科目のスリム化</p> <p>○2年次での国・数・英の必登録化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・皆勤賞の導入 ・資格取得と検定受験の促進 ・ボランティア活動の促進 ・キャリア関連科目の充実と再検討 <p>イ 学校設定科目検討委員会を立ち上げ、「産業社会と人間」の分割履修、「コーピング」の減単位など、キャリア科目のスリム化を実現した。</p> <p>ウ 学校設定科目検討委員会において、平成29年度入学生が履修するキャリア科目の指導計画を立案した。</p> <p>エ 平成28年11月22日に「創立10周年記念式典」を挙行し、吹奏楽、合唱、演劇、ダンス、手話による生徒の活動を披露するとともに、創立以来10年間の教育活動を記した記念誌（全88ページ）を刊行した。</p> <p>2 学習指導</p> <p>ア わかる授業を目標に、個に応じた丁寧な少人数習熟度別指導を実施し、良好な結果を得た。学校評価アンケートの結果は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「基礎学力をつけるために、授業以外にも自分なりに学習している。」 Yes…57.7%（前年比+7.8%） ・「授業では教材や教え方を工夫し、熱心に指導している。」 Yes…82.2%（前年比+5.1%） ・「選択科目は、興味や関心を持てる科目である。」 Yes…87.1%（前年比-0.3%） <p>イ 授業の質の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 言語能力向上拠点校の指定を受けるとともに、前文部科学省教科調査官を校内研修の講師に招き、言語活動の導入を積極的に図った。 ○ ICT機器を活用したことにより授業が活性化し、特に数学においては高い成果を実現した。 ○ 英語多読の授業やJETの活用により、英語学習に積極的な生徒が増えた。 | <p>4</p> <p>4</p> |

| 教育活動への取り組み（要約） | 自己評価（右端は自己採点・5段階） | |
|---|---|----------------------------|
| <p>ウ 新たな教育活動の導入</p> <p>○ 土日・祝日や長期休業日に「社会体実習」を実施し、教室で学んだ知識や内容の定着を図る。</p> <p>○ 土日・祝日や長期休業日に資格取得や検定試験受験を目的にした「検定対策講座」を実施する。</p> <p>3 進路指導</p> <p>ア 組織的なキャリア教育により、進路決定率を向上させる。</p> <p>イ キャリア教育を通して「社会的な自立」につなげる。</p> <p>ウ 「社会的な自立」を実現する指導を行う。ベネッセや若者サポートステーション等の外部機関と積極的に連携する。</p> <p>エ 学校独自に上級学校訪問を実施し、生徒の進路意識を醸成する。</p> <p>4-1 生徒指導（学校生活）</p> <p>落ち着いたきのある学校生活を保障する。</p> <p>ア 安心安全な学校を作る。</p> <p>○ 生命と人権の尊重、自他のチャレンジ尊重</p> <p>イ 落ち着いた学校生活をおくらせる。</p> <p>○ 校服の正しい着用、「笑顔で挨拶」の励行</p> <p>ウ きれいな学校環境を守る。</p> <p>○ 校内清掃の徹底、ゴミ分別を発展させる。</p> <p>4-2 生徒指導（特別活動・部活動）</p> <p>ア 文化祭、みのり杯等の学校行事を充実。</p> <p>イ 生徒の自主性を育てる生徒会活動を充実。</p> <p>ウ 生徒の個性を引き出す部活動を活性化。</p> <p>エ 生徒の生活集団の形勢を促す。</p> <p>4-3 生徒指導（防災教育）</p> <p>ア 災害に備えた校内体制（防災委員会）</p> <p>イ 震災を想定した防災訓練（年4回）</p> <p>ウ 災害に対応できる備蓄（企画室、総務部）</p> <p>5 保健指導（心と体の健康づくり）</p> <p>ア カウンセリング委員会を中心に相談機能（SC、みのりの場等）の連携を強化。</p> <p>イ 情報交換会における生徒情報を活かし、特別支援教育コーディネーターを中心に支援体制を構築する。</p> <p>ウ 学校保健計画、学校安全計画を立案し実行。</p> | <p>ウ 新たな教育活動</p> <p>○ 英語科の「JICA 地球広場」の見学をはじめ、9科目で「社会体験実習」を13回実施し、延べ124名の生徒が参加し、様々な体験活動を行い学習を深めた。</p> <p>○ 「検定対策講座」を8講座実施し、延べ90人の生徒が受講した。この結果、英検2級や漢検2級などの難易度の高い検定試験合格を出すことができた。</p> <p>3 進路指導</p> <p>ア 3月31日現在の進路決定率は、88%。</p> <p>○ 日東駒専 6名</p> <p>○ 就職内定者 9名</p> <p>イ 意欲向上するキャリア教育を展開</p> <p>○ 「キャリア通信」を11回発行</p> <p>○ 上級学校見学会を3回実施し、延べ67名の生徒が参加した。</p> <p>ウ 関係機関と連携した進路指導</p> <p>○ 地域の若者サポートステーションと連携し、校内で相談活動を実施して、複数の生徒を進路実現に結びつけた。</p> <p>4-1 生徒指導（学校生活）</p> <p>ア 「稔ミニマム」を制定し、学校生活上のルールの徹底を図った。特別指導の発生件数は、7件に抑えることができた。</p> <p>イ SNSの利用について指導を徹底した結果、トラブルの発生を防ぐことができた。</p> <p>ウ きれいな学校作りとして、生徒主導によるゴミ分別制度を実施した。</p> <p>4-2 生徒指導（特別活動・部活動）</p> <p>ア 文化祭では、来校者が前年比12.1%増。</p> <p>イ 生徒会や行事委員会が自発的・計画的に運営されるようになった。</p> <p>ウ 部活動参加率は33%に留まった。</p> <p>エ SHRを全クラスに導入した。</p> <p>4-3 生徒指導（防災教育）</p> <p>ア 携帯型防災ポケットメモを作成配布した。</p> <p>イ 震災を想定した防災訓練を年4回実施した。</p> <p>ウ 部活動単位で、地域の防災訓練に参加した。</p> <p>5 保健指導（心と体の健康づくり）</p> <p>ア 延べ473名の生徒がSC、みのりの場を利用するなど、保健相談機能が充実した。</p> <p>イ 保健室来室者統計を毎月発行し、生徒状況を全校で把握した。また自立支援チームの取扱いケース数は236件ののぼり、大きな貢献を果たした。</p> | <p>4</p> <p>4</p> <p>5</p> |

| 教育活動への取り組み（要約） | 自己評価（右端は自己採点・5段階） | |
|---|--|-------------------|
| <p>6 募集・広報活動 ア 個別相談、学校説明会、募集要項説明会を通して受検者や保護者の学校理解を深化する。 イ 学校PRを再構築し、応募倍率をアップする。 ウ 学校ホームページを頻繁に更新する。</p> <p>7 地域交流、保護者 ア 地域小中学校、町会・地区委員会等、地域との連携を強化する。 イ ボランティア活動を推奨し、地域と交流を推進する。 ウ 「みのり保護者の会」の組織化を支援する。</p> | <p>6 募集・広報活動 ア 「Minor Journal」や「みのり Q&A」を作成するなど、募集対策を充実させた。 イ 学校公開と体験入学を各1回ずつ増やすなど、募集対策を拡充したところ、応募倍率が1.68倍に増えた（前年比0.19倍増）。 ウ 約200回更新するとともに、内容の充実を図った（Minor Weekly、みのり Q&A など）。 エ 体験入部を実施した。（軟式野球部、バスケットボール部）</p> <p>7 地域交流、保護者 ア 他府県の教委や学校、地区委員会等の来校が増え、教育活動の公開が進んだ。 イ またボランティア活動への参加者は延べ330人にのぼり、地域の方々から数々のお褒めの言葉をいただいた。 ウ 「みのり保護者の会」や「卒業生の会」の運営が軌道に乗り、「創立10周年記念式典」に参加していただいた。</p> | <p>5</p> <p>4</p> |

次年度の課題

| |
|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1 授業や学校行事の工夫・改善を通じて、生徒の授業出席率の向上を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ・72.5%であった授業出席率を80%台に向上させる。 2 都教育委員会のアクティブ・ラーニング推進校の指定を受け、各教科・科目の見方や考え方を追究する授業の実践を試みる。 3 ワンランク上の教材を用いる「みのりゼミ」や「勉強合宿」を試行し、生徒の多様な教育ニーズに呼応する。 4 2年次の学校設定科目（キャリアデザイン、日本の伝統・文化）の内容を再検討し、精選を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態にあった体験的な学習を導入する。 ・内容を精選する。 5 生徒の興味・関心や進路に応じた、新たな自由選択科目の設置について検討する。 6 都教育委員会のボランティア教育推進校の指定を受け、マイレージに対応したボランティア活動の拡充を図る。 7 Ⅲ部の増学級に備え、Ⅲ部生の授業選択に柔軟な対応をとる。 <ul style="list-style-type: none"> ・昼からの授業選択を可能にし、夜間部のイメージを払拭する。 8 今後の増学級に備え、施設・設備を充実させるとともに、生徒の居場所づくりを推進する。 <ul style="list-style-type: none"> ・HR教室がないことから、授業の空き時間等の生徒の居場所づくりが急務である。 9 心と体の健康管理について、カウンセリング委員会を中心に情報共有化を進める。 <ul style="list-style-type: none"> ・自立支援チームと連携して、生徒の授業出席率の向上を図る。 ・みのりの場の利用を柔軟に運用し、長期欠席者の解消に努める。 10 引き続き中途退学者を減らし、卒業者を増やしていく。 <ul style="list-style-type: none"> ・目標 中退率5%未満、卒業生 毎年180人 ・ピアサポート（生徒同士の支え合い）の導入により、中退率を減少させる。 ・社会体験活動による単位認定（マイレージ）の積極的な運用により、単位修得の機会を増やす。 11 校内研修を充実させ、生徒の実態に応じた柔軟な教育が継続的に行われるようにする。 12 大規模な地震への対策として、地域と連携した防災訓練や防災教育を充実させる。 |
|--|